

## 第3回（平成18年度）

### 日本原子力学会北関東支部 技術功労賞

「第3回（平成18年度）日本原子力学会北関東支部技術功労賞」は、選考委員会の審議を経て平成18年3月21日に全役員の合意により以下の2件の受賞が決定しました。

本賞は、北関東支部管内において原子力に関する研究開発施設やプラントの運転管理、安全確保など技術支援分野において優れた貢献をした個人または団体に対して、その功労をたたえるものです。

#### 受賞者（受賞団体）及び受賞概要

- ・ 錦沢 友俊氏、小川 政行氏、園部 久夫氏、佐藤 隆氏、大和田 明彦氏、柴田 光彦氏、大津 巖氏、木内 敏男氏、佐川 淳氏、渡辺 博典氏  
（日本原子力研究開発機構 東海研究開発センター

原子力科学研究所 工務技術部工務第3課）

件名：軽水炉模擬試験装置の設計製作・安全運転の実施および高精度データ算出

（概要）軽水炉の安全性研究や新型炉開発研究においては、最高約180気圧、365℃までの高温高圧の過酷な実験条件下で、軽水炉の運転時や事故時のシステム挙動を模擬した高度な運転制御を行いながら実機サイズの大型実験を行う必要がある。受賞者は①ROSA 計画大型非定常実験装置（LSTF）、大型再冠水試験装置試験、BWR核熱結合（THYNC）試験や水冷却増殖炉（設計炉）限界熱流束試験等の実験に携り、装置の設計製作・技術開発と安全な運転及び高精度のデータ産出において大きく貢献した。

- ・ JT-60 運転・開発グループ（団体受賞）

（日本原子力研究開発機構 核融合研究開発部門）

件名：長年にわたる臨界プラズマ試験装置 JT-60 の運転と技術開発

（概要）1985年4月の初期運転の経験に基づいて、運転を効率的且つ安全に実施するための実験運転管理体制を構築し、その後も現在までに数々の合理化を図り、安全を確保しながら、柔軟に対応してきた。また、新規装置の導入や機器改造の設計・据付け時には、その健全性・安全性を審議するチェック&レビュー委員会に参加して、設備機器の機能拡張に貢献してきた。これらの努力の結果、長年にわたり装置稼働率を高いレベルに維持し、JT-60を現在においても世界の核融合研究開発をリードする大型実験装置とするとともに、多くの研究成果に大きく貢献した。

次ページに表彰式の写真を掲載します。

第3回(平成18年度)  
日本原子力学会 北関東支部  
技術功労賞表彰

第3回(平成18年度)  
日本原子力学会 北関東支部  
技術功労賞表彰

